

平成30年度

学校自己評価表（結果）

学校運営計画				
学校運営方針	確かな学力等を身につけさせ、人に信頼され、世の中から必要とされる人間へと育てる。			
前年度の成果と課題	30年度の重点目標	具体的目標		
<p>本校には、学力、進路ともに多様な生徒が入学しており、教職員が一丸となって生徒指導に取り組むとともに、基本的な生活習慣、学習習慣の確立に力を入れ成果をあげている。</p> <p>前年度は、生徒の自己実現を図るためキャリア教育に取り組み、27名が大学・短大等に進学した。また、就職では就職希望者全員が就職できた。</p> <p>今年度は、生命情報コース設置及びSPH研究指定校としての主旨を踏まえ、進学指導の一層の充実を図る。加えて、「社会が必要とする人材」育成の内容、方策の再点検と充実し、全校をあげて取り組む。また、本校の教育活動の理解を深めてもらうため、情報発信に力を入れ、地域に愛される学校づくりに努める。</p>	進路実現	学習指導	<p>○「情」「意」の情操や意欲を大切に指導・評価を行い、基礎学力としての「知」の習得につなげることで、生徒の、真に「生きる力」を育成する。</p> <p>○個人面談等を通じて生徒理解に努めるとともに、時宜を得た適切な情報提供と進路指導を行うことで、生徒一人一人の進路実現を図る。</p>	
		生徒指導	<p>○授業を中心とした、全教育現場において、加茂農林高校生としての自覚と誇りを持たせる指導を行い、信頼され、必要とされる人材へと育てる。</p> <p>○教育相談を充実させ、生徒の些細な変化を見逃すことなく、全職員の協力体制のもとで、いじめ撲滅及び転退学生徒の減少に努める。</p>	
	情報発信	学校PR	<p>○ホームページを随時更新し、加茂農林高校及び農業教育の魅力を積極的にアピールすると同時に、最新の情報提供に努める。</p> <p>○SPH指定校の取組を始めとした様々な教育活動や、生命情報コースの取組内容等のPRを行うために、適切な時期、方法で説明会等を実施し、中学生・保護者の理解と賛同を得る。</p>	
		交流・連携	<p>○学校外の交流活動や連携事業に積極的に取り組むとともに、加茂農林高校の人材及び施設を有効活用して、地域の活性化に貢献する。</p> <p>○授業や学校行事、SPH研究活動等を通じて地域交流を一層深め、信頼、信用、愛される学校づくりを進めるとともに、生徒の勤労観・職業観の醸成に努める。</p>	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
[進路実現]	教務	授業の確保	行事の精選と曜日の入替による授業時数の確保	A
		本校特色のPR活動	一日体験入学の実施	A
			本校施設見学の受け入れ。	A
		基礎学力の定着	成績不振者への積極的ケア(全体指導・個別指導)	B
		図書館利用の促進	専門書の充実を図る。	B
			調べ学習を補助するための環境整備	B
	業務の効率化	情報機器を利用しやすいよう環境を整備する。	A	
		生徒名簿・成績処理プログラム等を整備する。	B	
	生徒指導	<生活指導> 生徒のモラルを向上させることにより、地域住民からの信頼を得られるようにする	校内巡視の実施	A
			服装頭髪検査の実施	A
			学校・警察連携の生徒指導連絡協議会への参加	A
			遅刻者指導の実施	B
		<交通指導> 交通マナーの徹底を図り、交通違反・交通事故の防止に努める	自転車、原付バイク利用の通学者への交通指導	A
			原付バイク実技講習の実施	A
			交通講話による交通安全教育の実施	A
立哨による登校時の交通マナー指導			B	
登下校時の街頭指導の実施	B			
生徒会	青海会活動の活性化とリーダーの育成	リーダー研修会を実施する。	A	
		生徒会の自主的活動を活発にし、魅力ある年間行事を展開する。	B	
	部活動の加入率の向上	新入生オリエンテーションを実施する。	A	
1年生の部活動加入率100%を目指す。	B			
進路指導	早期に将来の進路計画を確立させ、目標の実現に向けて行動できる能力を育成する。	外部講師による講演会等を実施し、生徒や保護者の進路希望実現に対する意識を高める。	B	
		学年を追って、生徒の成長の度合いに応じた進路指導を行い、自らを向上させる力を身につけさせる。	B	
		みのりタイムやHRの、進路指導への活用を図る。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
〔進路実現〕	進路指導	進路目標達成のために必要となる、実践的な進路指導を充実させる。	進路情報の収集・整理を行い、3学年担任団と随時情報交換を行う。	A	A
		進学係が中心となって立案し、副任・コース担当を中心とした、面接や小論の個別進路指導を行う。	B		
		企業見学、履歴書・面接指導等の就職試験対策を実施する。	A		
	保健環境	進んで健康な生活を送ろうと努める生徒を育てる保健指導と健康管理の充実	健康診断、病気の予防等に関する行事の実施を通して、生徒に対して、健康の増進に関する指導を行う。	B	A
			疾病や情緒障害、体力・栄養に関する問題等、心身の健康に問題を持つ生徒の個別指導を行う。	A	
			生徒のさまざまな訴えに対して、状況を的確に観察・把握すると共に、心的な要因や背景を分析・考察し、関係者と連携して、解決のために支援する。	A	
		衛生的で快適な学習環境作りを積極的に推進する態度を育てる	保健委員会活動の指導を通して、健康と衛生に関する全校生徒の自覚を促す。内履きと外履きの履き替えを徹底させる。	B	B
	環境への関心を深め、ゴミの分別を徹底するなど、適切な処理ができる能力と態度を育てる	厚生週番活動の指導を通して、美化と環境保全に対する生徒の意識の高揚を促す。物の大切さを認識させる。	B		
	1学年	基本的生活習慣の確立	校則違反者に丁寧に関わりながら、反省文をしっかりと書かせる。	A	A
			整理・整頓・清掃を徹底する(特に教室の黒板、廊下の私物放置には厳しく取り組む)	A	
			日常的な挨拶、返事、教務室等の正しい入室方法が習慣化するように指導する。	A	
			チャイム着席・集会時の整列指導等で時間厳守の感覚を身につけさせる	B	
		基礎学力の向上	学習の基本となる提出物・課題等の期限を厳守させる。	B	A
			「学び方ガイドブック」を使って学習意欲の向上を図る。	C	
			成績上位者への進学指導を組織的に行う。	B	
			成績下位者(欠点保有者)の基礎学力向上のための指導を組織的に行う。	A	
		進路意識の啓発	進路指導部と連携し、3ヶ年間の指導計画に基づき、計画的な指導を実施する。	A	A
			学年通信に進路意識を啓発する情報を掲載する。	A	
	2学年	生活習慣・マナーの確立	服装頭髪検査を通して、高校生として清潔感のある服装・頭髪を維持する。	B	A
			日常的な挨拶、返事、報告が確実に出来るよう、繰り返し指導する。	A	
集会時の整列において、時間を厳守させるとともに、自主的な行動を意識させる。			A		
修学旅行を通じて、異文化理解や集団行動、公共マナーの大切さを考えさせる。			A		
基礎学力の定着・向上		学び直しのための朝学習を継続実施し、学習に向かう姿勢を育成する。	B	B	
		自己の学力を正確に把握するため、学年全体で基礎力診断テスト実施する。	B		
各種検定・資格取得の推奨		各種検定・資格取得に積極的に挑戦するよう、教科担当等と連携して働きかけをする。	A	A	
組織的な進路指導の実践		進路の選択・決定のため、一年間を見据えた進路ガイダンス・進路学習を行う。	A		
		個に応じた的確な進路把握のため、個別面談または三者面談を年2回以上実施する。	A		
		大学進学希望者に向けた特別講習を定期的に行い、基礎力の向上と文章力・表現力の向上を図る。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
〔進路実現〕	自己実現を図るため、自主的・主体的に取り組む姿勢を喚起する。	学年集会を適宜実施して各段階の目標を明確にする。	B	A	
		生徒との個別面談を必要な限り実施する。	A		
	進路実現のために、進路指導部・学科と学年団との連携を密にして、全員体制で取り組む。	週1回の担任会を実施し、意識や課題の共有化を図る。	A	B	
		LHR・総合学習の時間を有効に使い、進路実現に必要な情報を提示し意識を高めるとともに、具体的な取り組み(進路ガイダンス、面接指導、履歴書書き、小論文指導)は進路	B		
	コミュニケーション能力向上のための指導を行う。	生徒の自主的・協同的な活動(体育祭・文化祭など)を支援・成功に導くことで、コミュニケーション能力の向上を図る。	A	A	
	基本的な生活習慣を確立し、さらに社会人として自律した行動が取れるように指導する。	身だしなみ(服装・頭髪)の大切さを周知し、指導を徹底する。	A	A	
		生活リズムを整え、健康管理を図ることで遅刻・早退・欠席を減らす。	B		
		外部講師を積極的に活用し、社会人としてのマナー(挨拶や礼法など)を指導する。	A		
	基礎学力の向上、および進路に応じた学力の向上を図る	朝学習を継続実施し、学習に向かう態勢をつくり、社会人として必要な資質を育成する。	A	B	
		大学進学希望者に向けた特別講習を定期的実施し、基礎力の向上と文章力・表現力の向上を図る。	A		
		担任と教科担当の情報交換を行う。	B		
		各種検定・資格取得に積極的に受検するよう、教科担当等と連携して働きかける。	B		
	国語科	国語に関する基礎学力の向上	文字の適切な使い方の学習	B	A
			漢字や熟語の学習	A	
			全校漢字テストの実施	A	
			漢字検定の推進	B	
			辞書の活用	A	
	人の話に耳を傾ける態度を養い、自分の考えをまとめ、表現する力を伸ばす	意見交換・スピーチ等の実施	B	B	
		学年に応じた作文・感想文等の指導	A		
	地歴公民科	学習意欲の向上 社会事象に関する興味・関心の育成	視聴覚教材・新聞等の活用	A	B
			言語活動・参加型学習	B	
		基礎学力の向上	基礎基本に関わる知識の習得	B	B
			成績不振者への個別指導	A	
	学習の習慣化	定期的な課題学習の実施	A	A	
小テストの実施		A			
数学科	基礎学力・学習環境の向上	少人数クラスの展開	A	B	
		年間を通じて、個々に進学補習を実施	C		
		小テスト・補習などの実施	A		
	数学に対する興味・関心を持たせる	日常生活での数学の利用などを紹介 本の紹介	A		
直感力の育成	折り紙など通して具体的な感覚を育てる。	B			
理科	基礎的事項の定着	小テストや課題を生徒の理解度に合わせ、適宜行う。 机間巡視や問いかけを多くし、生徒の理解度の把握に努める。	B	A	
	科学的事象に対する興味、関心を育む	単元に即した実験、観察を適宜行う。 近年に整備した視聴覚教材を、積極的に活用する。	A		
	科学的な思考を養う	班ごとの活動や、協同学習により思考力を深める。	A		
保体科	基礎体力の向上を図る。あわせて、運動能力のレベルアップを推し進め、これらを通じて社会的態度(公正・協力・責任)を育成する。	年間を通じ体力向上を目的とした種目・時間を取り入れる。また、その効果を具体的な数値によって達成度を見る。(体力テストの実施)	A	B	
	生涯を通じ健康的に行動できる資質や能力を養う。	教科保健にて単元ごとに興味・理解を引き出させる。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	
〔進路実現〕	英語科	生徒の基礎学力の定着と向上を図る	習熟度別少人数クラスの展開	A	B
			パフォーマンステスト・音読テスト・課題テスト・小テストの実施	B	
			進学希望者への学習支援	B	
		英語学習への意欲を引き出し、英語の必要性を意識付ける	進路実現に向け、実用英語検定の受検を促し、補習を実施する。	A	
			進学希望者へは既得級より一つ上の級への挑戦を促す。	B	
	コミュニケーション能力を育成する	ALTの活用率を高め、実践的コミュニケーション能力の育成を図る。	B	B	
	家庭科	家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的知識や技術を習得する。	基礎的・基本的なワークシート・学習ノートを活用する。	A	A
			生きる力を養うための基礎・基本となる実習を行う。	A	
		日々の生活をしっかり見つめ、生涯を見通し、様々な人々と共に生きる能力と実践	協同学習を行う。	A	
			体験的・実践的に学べるよう実験・実習を多く取り入れる。	B	
	農業科	コース選択とコース運営の充実	学びかたガイドブックの活用とガイダンス科目の充実	B	B
		環境の教育、命の教育、食育の実践	各科目や「課題研究」の観点別評価の研究と実践	C	
			校地内美化、生命尊重の教育活動、食育の推進活動	B	
			実習環境や車両管理など徹底し安全第一主義	A	
		食の安全・安心教育の徹底	生産物の品質を含めた付加価値の外部評価の向上	B	
	農業クラブ	農業クラブ活動を通し、農業クラブの意義(社会性、科学性、指導性)を理解する	各種行事、競技会を全校生徒対象に実施する。生徒が各種大会で入賞できるように指導を行う。農業クラブ活動を通して地域との関わりを深め学校をPRする。	A	B
			リーダー研修を実施する。自発的自主的活動を推進し、行事を自ら企画し運営できる能力が備わるよう指導する。	B	
			これまでの農業クラブ活動を見直し今後の継続発展がなされるよう、情報発信と連携に力を注ぎたい。	B	
	人権同和教育	生徒に人権・同和問題に対する正しい知識を持たせ、人権意識の向上をはかる。生徒の差別やいじめを、許さない見逃さない心と姿勢を育てる。	人権だよりを発行して総合的学習の時間で指導を行う。(全学年2回)	A	A
			全校生徒及び保護者対象の人権・同和教育講演会を開催する。	A	
職員研修を実施し、教職員の人権意識と指導力の向上をはかる。			A		
〔情報発信〕	教務	本校特色のPR活動	一日体験入学の実施	A	A
			本校施設見学の受け入れ	A	
			情報の共有化と情報機器の有効活用	A	
			ホームページを適宜更新し、内容を充実させる	A	
	渉外	PTA総会の30%以上の出席	PTA役員会、評議員会を経て、充実したPTA総会を計画し、保護者への出席を促す。	A	A
			学校、保護者の連携	PTA総会をはじめ、県内研修視察、保護者向け公開授業、校内研修、文化祭農産物販売などを計画し、多くの保護者から参加を募り、本校の教育活動を理解いただく。	
	1学年	意欲的かつ目的意識を持った学校生活を送る	個別面談(三者面談)を年2回以上実施する。	A	A
			自己理解と学校理解を結びつけて高校生活のあり方を考えるような授業(LHR、「みのりタイム」)を展開する。	A	
			学年通信を定期的に発行する。	A	
	2学年	家庭との協力体制の確立	保護者への連絡や報告を密に行う。	A	A
			学年だよりを月1回以上発行し、情報発信に努める。	B	
	3学年	学校と家庭との協力体制を確立する。	保護者との面談、連絡を密に行う。	A	A
			学年だよりを月1回以上発行し、情報発信に努める。	A	
	農業	地域と連携した教育	キャリア教育と資格取得を進路指導へ結びつける	B	A
			地域から貴重な経験や学び合いを授かる活動の充実	A	
	農業クラブ	農業クラブ諸活動の活性化とリーダーの育成	リーダー研修を実施する。自発的自主的活動を推進し、行事を自ら企画し運営できる能力が備わるよう指導する。	B	B
これまでの農業クラブ活動を見直し今後の継続発展がなされるよう、情報発信と連携に力を注ぎたい。			B		
成果	学校運営方針や重点目標をもとに、各分掌、学年、教科等が計画し、組織的・継続的に取り組むことができた。学校の課題や各部署の課題を全職員で共有し、目標の達成に向けて取り組んだ。また、学校評議員会、地域の声を聞く会、生徒・保護者アンケートを実施し、学校の課題や地域の要望を把握し、改善に努めた。今年度の自己評価は、具体定方策のほとんどの項目でB以上の評価を達成することができた。進路希望の実現、基礎学力の定着、各学科・農業クラブ・部活動の活躍、あいさつ・身だしなみの向上、地域との連携等、大きな成果として現れた。次年度以降も、全職員が課題を共有し、学校運営に参画するという意識を持ち、組織的・継続的に取り組み、確かな学力を身につけさせ、人から信頼され、社会から必要とされる人間の育成に努めたい。			総合評価 A	